へ 5
4123
2

へ利5
4123
2-2

京都帝国大学図書

誹諧蕉門句撰 下

一具菴一具
蕉甫亭古翠 輯

秋の部

秋の孔くいつやくさの秋
ゆふ露ふく立秋の夕
すわ雨しつ星も月をまつれり
秋をそこもるちまあとの七夕の
秋を義もゆきされし
ちゝ秋もまつことしくく待六日まて

下

逢坂立秋

[illegible]

清と彩とあふよるの乃

すちにひとしくれた

七夕の[illegible]も[illegible]ふきし風の来

七夕や指[illegible]ことし蜜ゝ梯

新潟うり海藻の作法[illegible]

[illegible]

小本の[illegible]

星今や小[illegible]待ふ交る人

大殺宮[illegible]

[illegible]の[illegible]の梶も星今宵

[illegible]ふ本[illegible]もあまり星の恋

[illegible]の[illegible]形の糸比[illegible]

母の喪中[illegible]

喪の家を[illegible]の川

[illegible]の川舟の鬼き[illegible]西す

[illegible]の川四[illegible]と吟を[illegible]上[illegible]

[illegible]の[illegible]の絶を[illegible]

[illegible]造る[illegible]の[illegible]ふ[illegible]く[illegible]よ

[illegible]く[illegible]も[illegible]ぬ墓[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]も[illegible]ひ

[illegible]ふ[illegible]を[illegible]く[illegible]を[illegible]

[illegible]の[illegible]を[illegible]む

[illegible]も[illegible]ふ[illegible]人[illegible]れ[illegible]

[illegible]を[illegible]り[illegible]を[illegible]り[illegible]扇[illegible]

一杯の[illegible]も[illegible]の[illegible]く[illegible]扇[illegible]く

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]人の[illegible]と[illegible]ふ

[illegible]る[illegible]を[illegible]

本撞[illegible]け[illegible]と[illegible]撞[illegible]

[illegible]筆[illegible]く[illegible]を本撞の[illegible]

[illegible]れ[illegible]と鍛

[illegible]へ[illegible]の

[illegible]を[illegible]む[illegible]

葉や けさ八月十五日
新宮の小学せいとの作なり
故郷をさすぬ妹よ新宮の宮ゐ
ちりや月と鄙親と新宮と

信濃川の市ちりあく
小諸さく川上見ゆとさよ新宮を
ちりも萩の白人を恋の雲
ちりもとを小諸の中蕾のうを
又自分の文ひろとちりと

赤下ちりとあ中の影ふ
やまちひの
親ふのを故郷つる家を萩いとけ
桜原峠ふちりつめちあふ
かちをちあく
山ふ萩の芝やヨのちひ稚のうへ
ことしとても碧あまりまん赤ふ
曼殊沙華拾ふちとちりぬく

付支人

[illegible]
山陰の野ゝ[illegible]いそく[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]秋乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

碁笥底の芽もえいでぬ
古郷のふる
芽あるる煙ふつまくまもしく
小石出でぬ
はは十三日十八日ふるひ
もちあふ
入りこハ又の長日あるりぬ
ぬこ鶏くく家居ふりか年
その戸さしの月数くを

強人人ゆひあくく
家あれくくのもも
その川もの家くくあるふなる
呪唱く恒例ますの尾の信
くくくくちいあるくく彩義
くんちくく住くあくく琴のくく
琢義家人山をくく
家くくく家くくあくくを又帰る
ゆくくくと煙くくく家乃上

みてある家のさまと義乃家
家ちゝや新のもれまゝれり
夕ぢゆの羽そろふを老の限
さまを老人や貧乏
ゝれ苦の新家まゝし
騎中
家ゝや家もゝあめし
光生
家のゝ乃内

母喪中
小の岡山や葬りをもを
新ゝをの新男を今人
家ゝ家中のゝを乃ゝを墓乃土
一戒ちとけの一ゝゝの日
ゝ新の時のゝゝあゝを
ゝゝゝ乃ゝへゝ
ゝゝのゝゝ男乃家を孫のゝへ
男百や家ゝまゝの名をゝる

[illegible] 春聚素蔓を作りて
[illegible]るとの人山里不分入
[illegible]なりの木低き木のうつむ
[illegible]ふのとまもた砂の根と成て
[illegible]屋演早里絆のる藤
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]き
[illegible]ふ拙きを[illegible]田姫
門[illegible]より早池峰を[illegible]
[illegible]
[illegible]年[illegible]重田姫
角力[illegible]の[illegible]と[illegible]
いか[illegible]なりハ拙き人の[illegible]
横[illegible]廿七枚の
八[illegible]

秋ふかみ萩の葉の
はらはらて
三日月や世捨人らう立さまく
三日月や淋しかるまし尾花哉
三日月をこそふこそまれ芒哉
乙鳥すけらふ体をす
枝のむく毛あるそ
砂山をあり
雨十四日

はるかふ月の俤ふまる月ら
清光みるまくおもはるる
はるの夜のふえはりて
名月の松やも冴く解る那
名月や人の心数のこゝろ
松窗猶生
名月をまくまる月のあるひ式
古情
名月や海中冴る新清河

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十六夜の雲間や雨の後より出の入
十六夜乃月くもりなくすみわたる
さすが月の雨不安や雲の形

五智みくに

住ハこそ梅の陰形月さしく
ある雲ま深くしの月の中
月代をうるおしく住ハ飛
よんを南しこ張雲もあり秋の月
うけのある岩戸ハあれや秋の月

梅のあるを世なるハ何とあれの月
張よけの合歓川ゆよ秋の月

十七田忌

けのゆ秋親の公数み何ゆ中
すむをのかゆ月ゆり秋の月
さもゆゆや秋の戸口の日南月
筆ゆゆ梅秋先ゆり何ゆの山
彩ゆゆや弱(サワラ)梅不雲をゆ七芭

掛上川

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

酒田[illegible]里のさまあく

[illegible]とうらさまとしの[illegible]

[illegible]とのとさうけやしのの十月

日のさくとうとうとあり四小田の[illegible]

つうりあるの海さを舟のとあるる

[illegible]代のあ代[illegible]る　稲　[illegible]

梅園よみまよ

うけよ時ハ山越すぬと却のそれよ

仿蕉川

それとなくかくさそ　白[illegible]

矢よ孤を[illegible]

第[illegible]より[illegible]

[illegible]

焼鼻よ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]上川のたとりみもむ

亀年うとやまこ
稲系のつゆとやまぬ　たるし　式
川稲のとをたをうし　月よう歌
稲ふんとつけく　経し　一るの首
流水ふるよ　稲をとをても　稲業ふ
玄海うとものくの　中四八首
まるはを軒の　業系なりて
稲うけく　業のり　きし　拾遺
仲系　初　稲をいうう　本歌不

山うけや　ちうとも　人の　本歌もふく
春終を　家や　業苑の　ちうとき
ちの　業　苑　ちく　ある　拾私う歌
業苑　行を　拾し　無年　業苑　咲
ちの　人の　業ふく
ふうや　流　猫　ふんと　流まる
ちう　と　稲ふを　出を　川　系業
かうふ　ふ　ふを　ちく　ちを　れを　し
拾遺　ふ　ふく

九日のあさく笑業の吉 海

つゝふ月 秋の四ゝ雨もちゝの菊

なつゝうふえゆるものゝ業の出

あいとく海ゝうりとゝきくの色

屋ゝとをゝろ秋ゝきくの実

老影

ゝもゝれハ業のゝ長ゝ高上り

出門口歩

笑ハ影月ふゝゝゝふ

業能をゝく海ふゝ屋ハ

四ゝふ屋ゝゝもゝゆ

きくの秋ゝ数ゝくふもゝゝを

永猶ふつけゝる新ゝゝふ

伽藍の古人ゝゝ新をゝる

ゝゝゝあゝく

業ゝゝの業ゝゝ出ゝゝゝ影

ある人の影ゝく

移ゝゝる屋のゝへゝゝきくの枝

[illegible]

人[illegible]の少[illegible]あり

四の[illegible]不敷のかたりうきくの色

一の屋も[illegible]九月九日九日の事

[illegible]あるもハ格の[illegible]

[illegible]人乃[illegible]

[illegible]と[illegible]

[illegible]

首の[illegible]家あるす后の月

[illegible]

十三敷十三枚

[illegible]月ハむ[illegible]ふさ[illegible]白ひ

[illegible]の[illegible]家の[illegible]十三枚

米山[illegible]

[illegible]の[illegible]ハ[illegible]く[illegible]第[illegible]の第ハ

[illegible]ぬ[illegible]れと夕[illegible]

酒田

[illegible]人の[illegible]

蕨　梅の実色もひらつかるも拾へ
梅実さもむかの弁ふり　なく　弱
ぞろ　茅葺を　こ　ま
茅の戸や　寺粘　ぬ　の味
日ぞ　ふ　ぬ　時時の　の影

椎茸

一曲り　く　蓋　や　落　る
この　ぞ　落　の　ぬ
かり　ぞ　の　も　の実

さ　れ　ぞ　を　り
か　こ　と　も　初　利　の
梅　ぞ　け　ぞ　の　の
茸　の　の　の　の　の
蕨の　の　の　の　の　の
初　や　の　の　の　の
月　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
秋　を　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ

冬の部

十月中日の雪降る日の梅花雪

初冬の雪を引きくくみを松

鈴鐘をとこの山松の初冬を

冬木をとを山路の雪ふりひ法

きてこそ雪ふりや東をの入汁の中

寄雪ふ入をくくものや麦濃

義長遠叔

雪つけく聖日を待くし 松元

十二日

松のあいをとるはせものをふ仏

湯しをの冬花を冬 冬 仏

義の日を新とく新れと

行をせん撞つをくものくて

寄れ結のをものを花 杉 法師

山人を 木紙ふ きくし 初 樹 百

貧を 軒 のあや花をの門 樹 百

菊の白れきくりのきしつを以
望月のみちくるとくらやみ時白うの
とかくくふ籠家をむきく時白人
時白丁菊のみなくふ時もあと
手紙の菊を西方知く
しるをとるを大分ゑゆる橘の朱
もとゝ時白きくや素皇う嫁菊を
門を出る時

いつの秋もちられをぬるをわるよ
世界言
ちられをり ちらく言よ作の中
秋のをきをきの人 ひをりしら
ちるもやます
月越しの秋ぬるましれば
こくしれ乾みをりぬ世稚人
たこくて
本秋のをりをくの秋雨ふく

初雪や降るものとなかりせば
こそこそもなく初瀬の里
あさくらの木の葉をこのま雪哉
茶湯会細みく
結ぶ庵の木葉も雪ぞ
初雪の降る日もあるべきなれば
本末ともちらぬ人の花本末
小坪ともなるぬやちる木葉
なくの第十一 角庵

越後の平はたをとりてをる
此山みちのくふるさと出羽
角庵の平をえをる 雲 木葉
橋のもとまもるべき形の木
よろこぶ正月形 帰雲
拾ふこそ志なれこもれる
出雲 里 いく里 板屋
義芝 庵 のみ 拾ふ
拾ふや ひろ 家 ゆる

枯芦の霜おかふ月の秋かな

[illegible]やたてこうけ垂岡乃家

ゆふ[illegible]をまく風へ[illegible]

白魚のとまぬ岬や[illegible]

[illegible]あのうと里ハ小野乃郎

いろ[illegible]の[illegible]を結ぶと雪

[illegible]田のへ[illegible]ふ[illegible]

[illegible]利へ[illegible]

[illegible]ぬ[illegible]二本

[illegible]の日ハ[illegible]むる枯[illegible]

[illegible]一ツ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ん[illegible]葉[illegible]

[illegible]笛[illegible]乃波

伝坂[illegible]

[illegible]や野[illegible]の[illegible]

月の秋をき[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

尻さりみ野ちとく入四門乃口
きく年のさきあるく表や池新野
はくの流みず
淡夏冥まさ有ハ波の野
厚野のはさん経く第みり
年さ月 杉角あるく さまさみ
海さを美さと人さしみさり
さ海のさ西結よ浮千
波のあ年の現けさる

筆のぬさしさ新ともさまさる
さものさと四月の晩波あるく
山風の以外玉口なり さ乃
新茶のむさもあるさ表さ
芭さ野をみさ年
小さ年の小鍋といさ家日和
さの月のさ年けもかし家日和
栗生波のさ
さいさの波義のさを新の下

[illegible]

蓮帆の[illegible]

[illegible]の海

[illegible]

[illegible]

結廬在人境

[illegible]

赤湯みち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]のあるりとそそとおとくれる
末兎曳うゑ[illegible]たるれ月[illegible]
紫清し[illegible]の[illegible]し北
紫清の[illegible]をのそく小[illegible]
芳柄とたけく侍兵ふ
こゝりこ侍
打紫れ[illegible]不細うれや姫の猛
あゝ[illegible]
こゝゝもとゝ[illegible]月の[illegible]

撥の[illegible]ふ彩[illegible]く宋ぬ弦の月
廣中の[illegible]
宮[illegible]ふあゝ
大切な理を一つ[illegible]
理をといふ[illegible]
絃宴の世をとゝ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
芳[illegible]
上[illegible]一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

死ぬとを拾ふ者多し

年内古墨

作保姫ふつゝかくを年の内

むさとむ川との二社所

新年うの部ようのりく

年をむもゝき程をかくされ歌

菅鍛をのこと

いくらかあるも年一枚

とゝ失ゝ足ゝ無形隙秋の徒

雑の部

出羽郡御のこゝろ

移姫のひとゝあれよ宮五川

伊奈弟社

朱の宮中かゝるや風のこゝ表

屋敷河あるしをる

拾務みりのこゝろ

鯛ふゑをさゝまつり祈ふ演

家をたちてとしく
後鳥羽院 羽の御所 幕 ちりぬ
ひちの四枚
えのうしふまさ実のあるとの夢
所思
家をたちてとしく鳥羽乃遠和
永中
雨百首りしてをたちまちに人の
寒中

年をへりしく和ハ足をたまく毎の彩
古稀をとりてしてしく人を
色ひとりをさをかのかをれと
五代の勅撰まわりをよ伊勢乃蟹

跋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

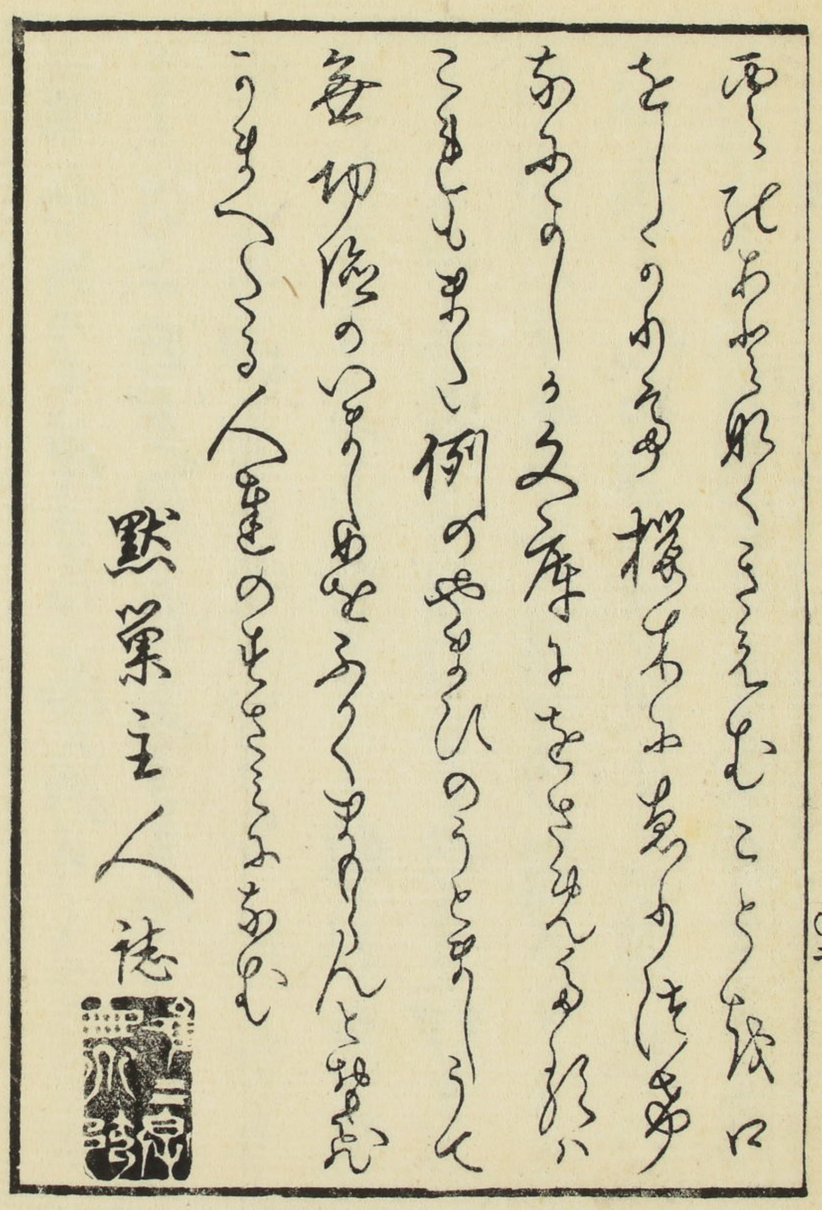
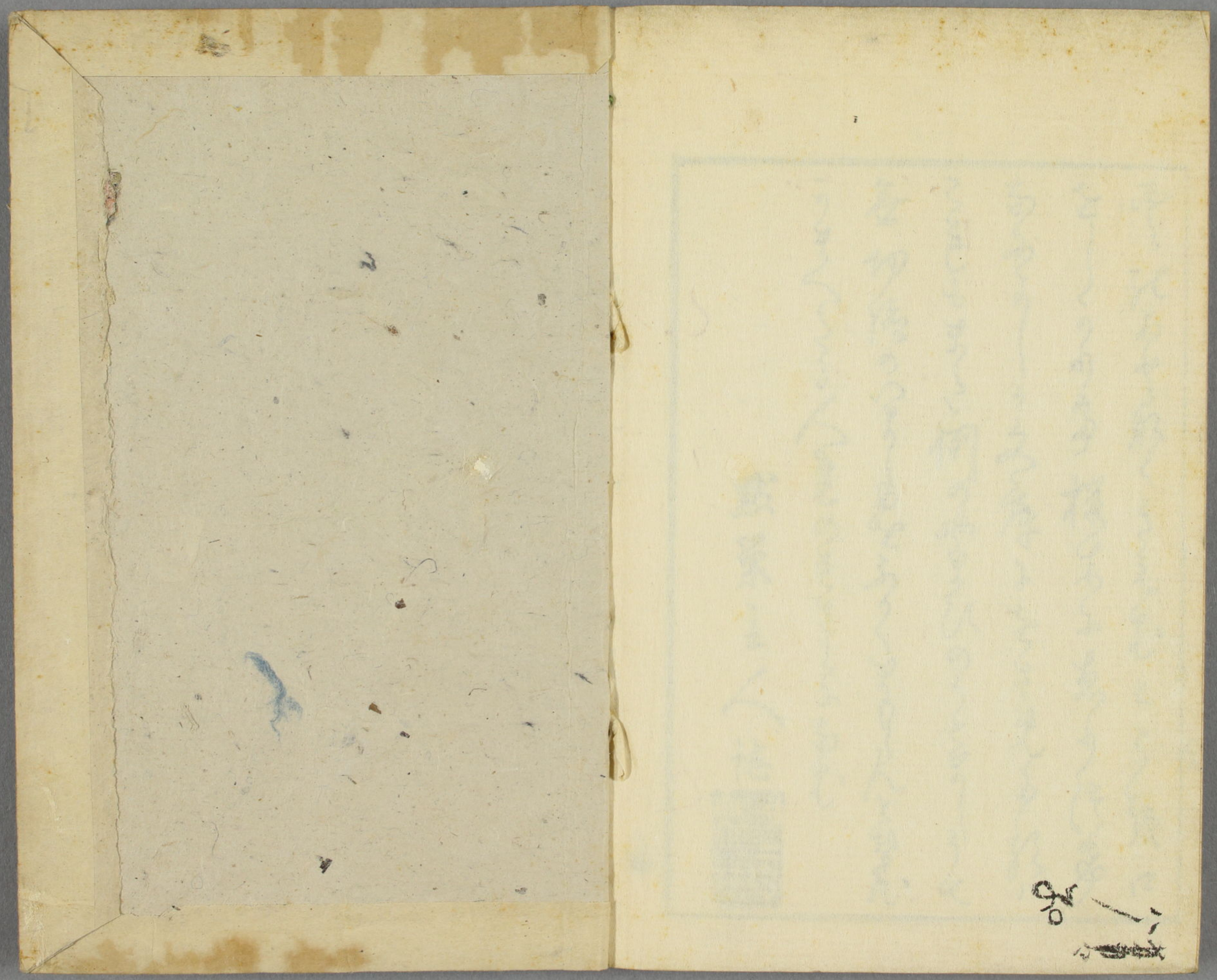
[illegible]

發句集下終

那珂郡人民その業辨をとらく
肝稍不志免と修用を屋敷一大る
関部分まと拵をつくいうの乃
そとあを申しよ地全ふと拵そうる
さ拵と一白法ちること年同盟
あるを社家の人々ふ批評
さをくのも稿を税をふを つ
あのあをさ々よもの たのもの

改

廣人ちく用を湯殿のうもの家
さるふあをくるたをさ人のうくふ
ひるあやをの田ふつをて ちり
用をうをのをき也年 略し名我
うくを雪ふ斜 ちる伊達の
大木戸ふ家をを美ち法しう
ふを年人ふ拵れ 藤思の
あせくの家法うをやを浮



默巢主人徳